



MARUOKA

会長 藤本 豊 幹事 水上智愛

創立 昭和53年3月21日 承認 昭和53年4月6日
<http://www.maruoka-rotary.com/> (No.14497)

今回例会 第1415回
 平成19年2月7日(水)
 外部卓話
 『 仏法のしづく
 一洋の東にも西にも一 』
 真宗出雲路派 了慶寺
 住職 藤枝宏壽様



率先しよう



Mutual Trust
 奉仕の感動を分かち合おう。

次回例会 第1416回
 平成19年2月14日
 移動例会 坂井町商工会 2F
 委員長卓話
 橋本職業奉仕委員長
 西野ローターリー情報委員長

ビル・ボイト R・I 会長 平井義久ガバナー

今日のローターリーソング



『 君が代 』
 『 四つのテスト 』



(1/31)

藤本会長 挨拶

今日のお客様を紹介いたします。卓話をして下さいます
 野生オルカ研究所スタッフの三屋智子様です。
 今日はとても暖かく暖冬と思われそうですがこんな年は風邪が流行
 しやすいそうです。皆様も十分気をつけてください。

水上幹事 報告

- ※ ローターリー友情交換委員会より
 第2回 R I 第5000地区(ハワイ州)親善訪問へのお誘い
- ※ 米山記念奨学会より確定申告用領収証が来ています。
 各自のメンバーズブックに入っています。
- ※ 2007~2008 年度地区委員就任のお願い
 財団補助金委員会 林田敦一会員

福井県下 会長・幹事会 開催 村丸岡 RC

2月3日(土)丸岡総合福祉保健センターにてPM2:00~4:30
 平井ガバナー・松原ガバナー補佐・大藤地区幹事長代行様を迎えて
 熱心な協議が行われました。

- 大野 RC 2006~07 年度 IM・RYLA について
- 福井水仙 RC 子供の電話「ふくいチャイルドライン」について
- 敦賀 RC 2006 年度 CLP が導入されて
- 福井北 RC 教育再生機構のイベントの協賛について



本日の合計	本日迄の累計	前年度との比較
13,000円	1,042,221円	1,201,000円

県内クラブ 例会日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
	福井東 福井厚生年金 敦賀西 サンピア 敦賀 PM7:00 点鐘	福井南 織協ビル8F 勝山 市民活動センター 武生 武生商工会館 若狭 小浜商工会議所 福井フェニックス リンクトンホテル PM6:30 点鐘	福井北 リンクトンホテル 敦賀 北陸銀行敦賀支店 鯖江北 神明公民館 福井水仙 神明神社 PM6:30 点鐘 丸岡 JA花咲ふくい丸岡支店	福井 ユアーズホテル 武生府中 JA越前たけふ	福井西 グラントリア 三国 三国観光ホテル 大野 リブレ 4F 鯖江 鯖江商工会館 あじさい リバーシェアビル

卓話

カナダの
野生のオルカと私
野生オルカ研究所 三屋智子様



オルカラボ全景

●オルカラボについて

オルカラボは、カナダ・ブリティッシュコロンビア州の西海岸、ジョンストン海峡にある小さな島にたてられています。この島はハンソン島という無人島で、タテ3キロ、横8キロくらいの小さな島です。このハンソン島周辺にはとても大きな川があつて、夏になると鮭がいっせいに川にのぼってきます。この鮭を食べるために、夏にはシャチが集まって来ます。

今から約30年も前、ポール・スポング博士は、無人島であったハンソン島に移り住み、たったひとりでオルカラボを作りました。博士は、もともと脳の研究者で、バンクーバー水族館でじら類の脳の研究するという仕事を

していましたが、水族館での鯨類の飼育に疑問を感じ、野生下でのシャチの研究の方に興味を持ったのです。そして、活動拠点として選んだのが、現在のオルカラボのあるハンソン島です。

●シャチについて

シャチは体長7~10メートル、体重は4~5トンから最大10トンにもなる、大きなほ乳類です。脳は人間の4倍あり、とても高度な知能と社会性を持った動物です。また野生のシャチ同士の間では決して争うことはなく、人間を襲うこともありません。オスはメスの2倍以上もある高い背びれを持っています。背びれの形とその後ろの白い模様で、個体識別をすることができます。

シャチには、アシカや大きなクジラをも襲う肉食のものと、魚しか食べない種類がありますが、どちらの種類も、音響動物と呼ばれるほど、音に頼って生きている動物です。オルカラボ周辺のシャチは、家族ごとに方言があるので、慣れればわたしたちでも簡単にどの家族の声か判別することができます。

スポング博士は、「伸び伸びと生きる野生のシャチたちの生活をしたくない」ということでした。そのポリシーに従って考えだしたのが、「リモート・ハイドロフォンシステム」というものです。ハンソン島の周辺、特にオルカたちがよく通る水路に水中マイクを沈め、彼らの鳴き声を拾い、方言を聞き分けて、行動をつかもうと思ったのです。この方法で、それまでの追い回したりする研究ではほとんどわからなかった夜の間の動きもカバーできるようになりました。

オルカラボには30年分のデータがあり、自分たちの研究材料になっていることはもちろんですが、研究者や学生がいろんなシチュエーションにおいての研究論文を書く時、必要なときに借り出せるデータライブラリの役目も果たしています。

●迷子のシャチの帰還

働き始めてから4年たった2002年、シャチという動物に対してあらためて感動する出来事がありました。お母さんを亡くして迷子になってしまった赤ちゃんのシャチにまつわる話です。

スプリングーは、2000年に生まれました。翌年、夏になってスプリングーの一家がハンソン島の近くまで戻って来たとき、スプリングーとそのお母さんの姿は、群れの中にはありませんでした。

シャチは家族で一生を共にする、非常にきずな強い動物です。1頭のオルカが群れの中にいなければ、死亡したとみなされます。なので、わたしたちははっきり、母親とスプリングーは、死亡したものと思っていました。ですが、お母さんを亡くしたスプリングーは、ひとりぼっちで生きていたのです。

●マップ

お母さんを亡くしたスプリングーはアメリカの海まで泳いで行きました。そして2002年1月、シアトル沖でひとりぼっちでいるところを人間に発見されました。シャチの赤ちゃんがひとりぼっちでいるということは尋常ではありません。彼女はやせていて、皮膚の状態もよくありませんでした。心配した



研究者たちは、水中マイクを沈めてそのシャチが誰であるか調べようと思いました。そして、この小さな赤ちゃんが、アメリカ周辺に住む子ではなく、何百キロも離れた遠いカナダの北のシャチの方言を使っていたことに大変驚きました。

話し合いの結果「カナダに連れて行って家族のもとに帰そう」という結論になりました。政府、漁業局、研究者、マスコミ、ボランティア、野次馬、すべての人が一丸となってスプリングーを仲間のもとへ返すための準備ははじまりました。

スプリングーはとても小さかったので予算もすぐにつき、高速ボートがチャーターされました。7月、彼女の故郷であるジョンストン海峡に、夏になって他のシャチたちが戻って来始めたとき、スタートしました。スプリングーはボートに乗せられてカナダに向かいました。スプリングーは、オルカラボのあるハンソン島の、ドンチヨンベイという小さな入り江にやってきました。入り江にはいけすが作られていて、現地の人が生け捕りにしてくれた鮭がたくさん入っていました。いけすに入ったスプリングーは長旅の疲れも見せずに元気に泳ぎ回り、鮭をもりもり食べて仲間が来るのを待ちました。

さっそく仲間がやってきました。スプリングーも迎えに来た仲間もとても興奮しているのが、よくわかりましたが、研究者がもう少し様子を見たかったようなので、開放は翌日にもちこしになりました。

翌日、ヘリやマスコミのボートや人間が海岸にたくさんいて、とても緊迫した雰囲気の中で、勇気を出して入って来ました。彼らはこのとき起こることを人間の手にゆだねるしかないとを知っていたのでしょうか、シャチは相当強い力を持っていて、いけすのそばに立っている人間を襲おうと思えばできたでしょうし、いけすも壊せたと思います。でも、彼らが次にしたことは、水面に列に浮かんで、わたしたちの判断を待つ、ということでした。指揮を取っていた研究者さんがとうとうゴーサインを出しました。こうやって、スプリングーはジョンストン海峡に住む野生のシャチに戻ったのです。

あれから5年たった現在も、スプリングーは親戚や仲間のそばをかたときも離れず、すくすくと元気に育っています。スプリングーは現在6歳、あと5~6年もすれば、母親になるかもしれません。この海域のシャチは1960年代後半から、おもに水族館へ売られる目的で無謀に大量捕獲され、数が激減してしまいました。捕まったシャチたちも、ほとんどがすぐに死んでしまいました。将来このやんちゃなスプリングーが母親になって、1頭、また1頭とこのコミュニティの数を増やして行ったとき、わたしたちは自分たちが助けたひとつの小さな命の大きさに、あらためて気づかされるかもしれません。

oman, unions join forces



わたしが野生のシャチをこういった方法で追いつけているのは、広い海で音を存分に使って暮らす彼らの姿が好きだからです。もちろんボランティアスタッフですから、夏の3ヶ月の間、寝る間も惜しんで働いたからと言って、給料がもらえるわけでもないし、大学の研究者ではないので湯水のようにお金を使って論文が発表できるわけでもありません。でも、わたしはシャチという、決して争わず、平和を愛する動物が好きで、海の中に響く彼らの声が好きで、この動物のことを少しでも多くの方に知ってもらいたいと思いました。学者さんの言うことは難しくてもわかりにくけれど、10年前までシャチの事を何一つ知らなかったわたしの言葉なら、一般の人にもわかりやすいのではないかと思います。少しでも多くの人にシャチの事を知ってもらい、興味を持ってもらうことで、彼らの住む海を守り、さらに地球を守れることに繋がれば、すこしでもその役に立てればいいなと思っています。



事務局 〒910-0254 Tel (0776) 67-0410 / Fax (0776) 67-4811

福井県坂井市丸岡町一本田34-7 JA花咲ふくい丸岡支店2F

例会場 JA花咲ふくい丸岡支店3F

例会日 毎週 水曜日 12時30分 会員数 37名

会報委員長 高尾 誠 副委員長 稲葉 治

委員 川端克治 下田重道